

令和4年度 第3回 早島支援学校 学校運営協議会 議事録

- 1 日時 令和5年2月14日(火) 13:30～15:30
- 2 会場 岡山県立早島支援学校 大会議室
- 3 参加者 ・学校運営協議会委員7名(欠席3名)
・学校(事務部長、副校長、各部教頭、主幹教諭、総括教務)10名

4 内容

(1) 開会行事

- ①開会挨拶<校長>
- ②日程説明<事務局>

(2) 説明・協議<進行:会長>

○重点協議事項「地域に開かれた学校づくり」に関する取組の評価について

①学校支援に関する取組<担当教頭>

[進路学習、産業現場等における実習]

- ・校内実習や外部講師をお招きした講演を行い、子どもの学びに繋がった。
- ・文化祭でも販売学習を行った。
- ・保護者の協力が不可欠であり、保護者への啓発を行った。
- ・進路について語る会:卒業生2名、保護者を招き、生徒同士での話し合う場、保護者同士の語る機会とした。
- ・Facebookで情報発信し、共有している。

(今年度行ったPTA行事等)

- ・校長先生との懇話会
- ・PTA施設見学:代替行事として、事業所に来校いただき説明を聞いた。
- ・PTA保護者交流会:コロナ禍で保護者のつながりが少ない。自由に話してもらおう機会とした。
- ・3年生、移行支援会議
委員:コロナ禍で、生徒同士の校内での交流も少なくなっているのか。
→校内でも動きの制限があった。今年度は距離をとりながら関わりを持つとした。
高等部の校内実習を中学部が見学し、その後中学部の校内実習を行った。
委員:実際に身近な人の姿が見えるのはいい。
委員:進路だよりの反響は?
→新しく開設した事業所の情報を載せている。実際に反響を聞く機会がない。
委員:実習先の多くの方々に見てもらえたら。

[学校支援ボランティア]

- ・外部団体の担当とは連絡を取り合っていた。R5からは活動再開の予定。
委員:コロナの前の活動は?
→授業や休み時間での朗読を、部のニーズに合わせて行っていた。
委員:時間帯や時間は?
→授業時間45～50分のうち、30分程度。

②地域貢献に関する取組<担当教頭>

[学習製品販売、ボランティア活動]

- ・今年度は販売に力を入れて活動した。授業の中で制作したものを販売し、子どもたちに還元することで、また次への学習意欲が深まった。来年度も続けていきたい。保護者や地域の方へも伝えていきたい。
- ・本日中学部Ⅱ類型の販売学習を行っている。一部見本を持ってきている。
委員:課題は?
→地域の方との協力が課題である。
→委員の方にご尽力いただいた。追加注文までであった。さらなる発展のため、子ど

もが会場に行き販売活動ができればと考える。

委員：このような作品は、完成したものが決まっているのか。

→Ⅱ類型生徒が、授業でミシンを使ってできるものを制作した。

委員：商品のラッピングの中にコメントがあるのか。商品を手にとった中にあると分かりやすい。

[地域での学校紹介]

・今年度「キャリア教育フェア」や「はやしま生涯学習まつり」に参加した。

・各学部から Facebook で発信した。

委員：継続が課題とあるが、どのような問題があるか。

→このつながりを切ってはいけない。作品の制作が子どもや先生の負担にならないようにしたい。

委員：これら以外に地域を模索しているということか。

→できるところから探っているところである。

[学校間交流、居住地校交流]

・居住地校交流は参加率が上がった。県の示す標準の流れに合わせて行う。

・早島小との交流が再開、次回オンラインでの交流を3月に予定。

・高等学校での交流：肢体不自由部高等部と興陽高校、関西高校との3校交流では、関西高校の吹奏楽部が来校することができた。

・特別支援学校間の交流：総合的な探究の時間で行った。来年度も続けていきたい。

・高校生議会への参加：特別支援学校代表として県の議会に参加した。またこのような機会に参加したい。

委員：居住地校交流の対象学校の反応は。

→居住地校の目標も大切にしたい。

委員：居住地以外の地域との交流は可能か。

→ケース by ケース。状況やねらいによって検討がいる。

委員：また情報があれば教えてほしい。

[センター的機能]

・はやしま特別支援教育連絡協議会2回（7、12月）の他、院内学級の定例会が行われるようになった。今後、会の運営や開催等の検討が必要。

・より多くの方に参加してほしい。

委員：オブザーバーとして参加できたらありがたい。

○来年度の学校経営計画について<校長>

・R2年度から目指す学校像を加え、微修正を重ねている。取消し線部分を削除、赤字を追記している。

・現在吸引が必要な児童生徒はスクールバスに乗れない。この子どもたちの通学手段をなんとかしたい。

・医ケア対象児童生徒の保護者の帯同を、1年から3ヶ月に減らした。どうすれば安心して受け入れることができるか、県教委とも意見交換を重ねている。

・訪問看護で関わっている看護師を、年度当初招き研修を行う。

・全県の医ケア対象の50%を受け入れている。この規模で受け入れているのは中四国でも早島のみ。人工呼吸器児童生徒の受け入れも早島で行った。

・今年度学校情報化認定を受けた。後続の支援学校の認定も続いている。

・高等部で登校が難しい生徒に対し、遠隔で授業を行っている事例がある。

・コロナ禍でICTが進んできた。さまざまところで可能性を感じている。

委員：コロナ禍でICTが進んだことは、先生方の努力の他、予算はどうなっているのか。

→全県で特別な予算がついた。100万単位で。他の予算は抑えられたが、ICTは特別に付いた。

→県立学校は予算が付き、いい波に乗ることができた。

(3) 指導助言

委員：R4年度は新しい地域との交流が伝えられ、成果があった。R5もぜひ現在のものの継続をお願いします。

委員：進路についての取組で、卒業生が来校して、生徒が進路のイメージを持つことができたのは、良い活動だった。障害者雇用率の法令も変わってきている。卒業後の生徒の就労に力を入れてほしい。

委員：今年度、会に参加して学校の様子を肌で感じることができた。新しい取組には熱量や振り返りも必要。来年度も継続され、コロナ禍でなかなかチャレンジしにくいですが、このような学校の取組には勇気をもらえらる。

委員：小学校との交流を復活できてよかった。ICTの活用によっていろいろな交流の形態ができた。2月の参観日、3月のフォーラムで発表を予定している。来年度も一緒に見直しができると思う。

委員：学校経営計画で、校長先生が医ケアに熱心で、帯同が短くなり、いろいろな提案に感謝したい。保護者の人生において仕事も大切で、キャリアが断たれ社会とのつながりが薄れることにも、精神的に悩むのは多くは母親である。父親は仕事中は一人の人間としていられるが、母親は子どもにつきっきりで、子どもと離れる機会としての仕事の存在は大きい。医療的ケアがあると働くことは難しいが、これからも就労の希望がある保護者については、帯同の期間を短くできればありがたい。センター的機能として、岡山市は未就学でも医療的ケアの対応できる園があるので、学校と連携ができればと思う。

校長：もっと厳しいご指摘もあれば我々も伸びていける。子どもたちの良い成長につながればありがたい。学校には医療的ケア対象以外の児童生徒もおり、双方対等に、一人の人間として育てていければと考えている。

委員：コロナで大変だったが、オンラインの認知が進んだ。社会がどうなるか分からないところもあるが、例えばマスクについてどうなるか分からないが、これからのいろいろな状況の中で対応が必要である。国も子育て支援に力を入れているが、医療についてはどうか。早島の子どもは医療の支援も受けているので。

(4) 閉会行事